

患者スピーカー・アンケート（37名）

各項目を読み、当てはまるものに✓を付けて下さい

1. あなたの職種は？

<input type="checkbox"/> 教育職 (7)	<input type="checkbox"/> 看護師 (12)	<input type="checkbox"/> メディカルスタッフ (12)	<input type="checkbox"/> 事務 (4)	<input type="checkbox"/> その他 (2)
---------------------------------------	--	--	--------------------------------------	---------------------------------------

2. 日常の業務中に患者さんやその家族と業務を遂行する上で、意思・意見の不一致を感じることはありますか？

<input type="checkbox"/> ある (26)	<input type="checkbox"/> ない (3)	<input type="checkbox"/> 日常、患者さんやその家族と接点がない (8)
---------------------------------------	--------------------------------------	--

3. 院内で取り組んでいる患者さんとその家族を含めたイベント・セミナー・サロンなどに参加されていますか？（1名未記入）

<input type="checkbox"/> 参加している (5)	<input type="checkbox"/> 参加していない (31)
--	--

5. 患者スピーカーの講演について

—a 講演者が“伝えたいこと”は伝わり（受け取れ）ましたか？

岡田拓也（ギラン・バレー症候群）

<input type="checkbox"/> 伝わった (37)	<input type="checkbox"/> まあまあ伝わった (0)	<input type="checkbox"/> 余り伝わらなかった (0)	<input type="checkbox"/> 伝わらなかった (0)
---	--	---	---

佐久間勇人（脊髄小脳変性症）

<input type="checkbox"/> 伝わった (37)	<input type="checkbox"/> まあまあ伝わった (0)	<input type="checkbox"/> 余り伝わらなかった (0)	<input type="checkbox"/> 伝わらなかった (0)
---	--	---	---

島村清子（急性前骨髄性白血病）

<input type="checkbox"/> 伝わった (36)	<input type="checkbox"/> まあまあ伝わった (0)	<input type="checkbox"/> 余り伝わらなかった (1)	<input type="checkbox"/> 伝わらなかった (0)
---	--	---	---

—b 各演者の講演内容（テーマ）についてどう思われましたか？

岡田拓也（ギラン・バレー症候群）

<input type="checkbox"/> 良かった (37)	<input type="checkbox"/> まあまあ良かった (0)	<input type="checkbox"/> 余り良くなかった (0)	<input type="checkbox"/> 良くなかった (0)
---	--	--	--

佐久間勇人（脊髄小脳変性症）

<input type="checkbox"/> 良かった (35)	<input type="checkbox"/> まあまあ良かった (2)	<input type="checkbox"/> 余り良くなかった (0)	<input type="checkbox"/> 良くなかった (0)
---	--	--	--

島村清子（急性前骨髄性白血病）

<input type="checkbox"/> 良かった (37)	<input type="checkbox"/> まあまあ良かった (0)	<input type="checkbox"/> 余り良くなかった (0)	<input type="checkbox"/> 良くなかった (0)
---	--	--	--

患者スピーカーの講演で印象に残ったことはありますか。ありましたらご記入ください

- ・医師から言われたという「よく耐えられていますね、本当に尊敬します」という言葉。
- ・健康は、置かれている状態の中でよりよく生きる。
- ・それぞれのスピーカーの方たちから背景が見えるくらい思いが伝わってきました。
- ・呼吸器の音を聞くだけの話を聞いて、患者さんの体験する世界は全く異なるものだと感じた。
- ・退院してからの生活への思い、入院中に感じていても表に出されなかった思いを語って

ただくことで、とても勉強になりました。

- 同じ人間として、学ぶことが多かったです。
- ご自分の体験や思いを自分の言葉で話されているのが素晴らしいかったです。
- 患者さんは、ここまで話せない人も多いと思いますので、思いや気持ちを汲み取れるようコミュニケーションを取れるようにするにはどうしたら良いのか考えさせられました。
- 入院中に不安でナースコールを押した時、寝たふりをした、というお話がありましたが、その不安な気持ちを打ち明けてもらえるようなナースやナースの役割を理解してもらえるよう努力することが必要と感じました。
- 言葉の大切さ ・前向きな〇〇 ・Ptへの関心 ・その時々が100% ・覚悟
- 「言葉」は大切であるということ。そして、その相手を思った言葉は、きっと、伝わるのだということ。
- 退院ができることに私たち医療者は「おめでとう」と言ってきましたが、講演を聴きと実際は違う。
- 笑顔は人を幸せな気持ちにさせる。
- 今を喜ぶことがエネルギーになる。
- 後悔しないように今できる事を精一杯やる。
- 自分が過ごした日常は、特別なもの、笑顔は人を呼びよせる。
- 言葉に飾りは要らない。
- 説明する時などにいろいろ付けて話をしているが、要らない時もあると感じた。
- 患者スピーカーからの講演を聴いて、実際にどのような思いをしてきたのか、患者の声を身近で聴くことができた。
- 患者さんに対する言葉のかけ方、患者さんの感じ方等、言葉の難しさを感じた。また、周囲への遠慮等から本心を話していないことも印象的だった。
- 退院後も疾患だけでなく環境変化に慣れるまで時間が必要であるということ。
- 病気をすることで、見え方、感じ方が変わった。
- 自信は前向きに考える力になる。
- 退院してからの心の辛さを知ることができました。
- 普段、日常的に使用している「基本的に」「一般的に」という言葉が冷たい言葉に感じてしまうことが想定外であり、印象的でした。
- 患者さんである方々の生の声ですので、やはり、心に響きます。その方々が、ファシリテータを行っていたり、病院職員の立場も良く分かっていたら、共感していただけていたり、尊敬と同時に反省しました。
- 退院してから大変なんだという事。
- 3名の方の共通している感じは、言葉、不安（患者自身）、気持ち（患者自身）、この3つを感じる。
- 本心で誠実に対応すれば相手に伝わること。
- 「2、3ヶ月」「1年、2年」、患者にとっては、2ヶ月と3ヶ月は、全く違うという事は失念していた。
- 患者が思うことを医療者が感じることのギャップが印象的でした。
- できる、できない、ではなく、やるか、やらないか。
- 本心を伝えられる範囲で伝える事。
- 病院にいる時の患者さんしか見ていなかったと気付かされた。
- 言葉の大切さについて、改めて思い知らされました。
- 言葉の大切さ。
- 退院後から新しい生活が始まる。
- 言葉に飾りは要らない、誰かとつながるために差し出すもの。
- 今、できることを精一杯やった方が良い。
- 今の日常の健康な生活は、特別なことなのだという事。

- 当たり前のように使っている言葉が患者さんにとっては良い言葉ではないことがある。
- 体力的な回復に1年、気持ちの回復に5年、という言葉を知り、勉強になった。
- 岡田さん→入院中の苦悩がすごく伝わってきました。怖くなるくらい。
- 佐久間さん→すごく前向きで、逆に元気になりました。
- 清子さん→共感できる部分が多かった。
- 言葉を発するにも、本心から語られる言葉は、心に届く。
- 今、出来ることを精一杯向き合う。
- 健康とは、置かれた状況の中で、より良く生きていくこと。
- 本心から語られた言葉が心に響くと言われたこと。
- 限りある時間を悔いなく生きている人の話を直接きけたこと。
- 体は回復しても、心がついてこないこともあること。
- 印象が深く涙が出た。

□患者スピーカーに語って欲しいことがありましたらご記入ください

- 医療者への要望をもっと遠慮なく。
- 具体的な医療者とのやり取りや、その時に感じたこと、地域の中で感じていることなど、教えて欲しいと思いました。
- 病棟の中で過ごす時の気持ち、医療者の対応に思うこと、回復に役立ったこと。
- 患者さんの経験、思いをたくさんの方にお聞きしたいです。
- 生きがいについて、家族への思い。
- 医療者が言った言葉や対応で傷ついた事など。
- 今後も患者さんとしての立場で多くの人に語っていただきたいです。
- 医療者のどんな言葉や態度で不安が和らぐのかを話して欲しいです。
- 日常で使われた言葉や態度の中で、どんな言葉が良かったか悪かったか？
(印象、雰囲気、感情)
- 目標、生きがい、出来ること、自分の病態を受け入れることができたきっかけ。
- 医療従事者に何を望んでいるか、本音。

6. ワークショップについて

ーa ワークショップはいかがでしたか (3名未記入)

□大変良かった □まあまあ良かった □余り良くなかった □良くなかった
(31) (3) (0) (0)

ーb 各テーブルに患者スピーカーが同席することについて評価して下さい (3名未記入)

□大変良いと思う □居ないよりは良いと思う □余り良くない □居ない方が良い
(34) (0) (0) (0)

ーc 患者スピーカーから患者の立場で思っていること、感じていることを聞けましたか？

□聞けた □聞けなかった (7名未記入)
(30) (1)

□「聞けた」方は、聞けた内容について、できるだけ簡便に幾らかあげて下さい

- 患者としての思うこと、感じたことなど、伝えてもらった。
- 自分の存在の価値が信じられなくなる程の不安な気持ち。
- 時間は限られているということ。
- 退院して元の生活に戻っても、直ぐに元に戻るわけではないこと。
- 孤独な気持ち
- 退院後の気持ちの落ち込み
- そこから、諦めないで這い上がること
- 患者・家族に不安を常に持っている。

- 同情ではなく、寄り添って欲しいと思っている。
- 話を聞いた後に話を聞いた本人に「どうでしたか」と聞くことはいいのか訊いたら「いいのでは」と話され、今後やってみようと思った。
- 患者さんの思いを率直に話していただいた。
- コミュニケーションが大切である。
- 笑顔で接してくれることで、不快に思う人はいないため、笑顔で寄り添ってくれるだけで嬉しいと感じる。
- 患者さんがどのような言葉を掛けられたら良かったのか。
- 本心話すというのを、どう感じ取ればいいのか。
- 看護師の言葉や態度で患者さんの気持ちも左右することがある。
- 飾った言葉は意味を持たない。
- 今の自分にやれることをやる大切さ。
- 看護師から不満などを話してもらえるとという信頼関係があると感じた。
- 思いの変化は、何か特別なことというより、日々の日常の中で、時間で、少しずつ変化していた。
- 患者さんから病院を見ての視点で話していただけた。
- その時々によるコミュニケーションに関わる心境の変化。
- 思いの変化は、何か特別なことというより、日々の日常の中で、時間で、少しずつ変化していた。
- 言葉の力を感じた。言葉は大事である事を大いに感じた。
- 患者もその家族も不安がある。
- 自分の一言で患者さんや家族が自分の意図しない方向に理解する可能性もある。
- 話を言える人、言えない人が、やはり、現実にはいる。
- 何気なく言った一言が本心の一つであることもある。
- 情報の選択は、時に過激なことがあり、共感を得てしまうこともある。
- 退院してからの不安が高いこと。
- 行ってもらいたいことは人によって違う。
- 退院後、治療が終わった後、感情と体の調子が元に戻るのは大変。
- 生きがい、目標を持つことが大切。
- 誠実な気持ちは、患者に伝わるはずなので、心からの言葉を伝えようと思った。
- 何かをしなくては、始まらない、一歩踏み出して精一杯やっという。
- 普段、接することがないので、スピーカーの方の意見も聞けてとても勉強になった。
- 気持ちで接する事が大切。
- 難しいことは要らないのだなど。
- 共感できなくても自分なりに相手を思いやる事。
- 何気ない行動でも患者さんにとっては、良く思わないことがあることが分かった。
(長期になると考えが変わってくる)
- 患者さんの今の立場を考えて、対応していくことが大事だと思いました。
- 看護師さんと話ができることで、患者さんが「医療者から信頼されていると感じられた」と言われたこと。
- 「できる、できない」より、「やる」ことに意義があるという話に感動。

7. 研修全体での有意義度を評価して下さい(3名未記入)

大変有意義

(29)

それなりに有意義

(5)

余り有意義ではなかった

(0)

全く有意義ではなかった

(0)

8. 今回の研修目標到達に関わる4項目について、現時点での到達できる自信度を表して下さい

研修目標「患者を知り、今の職務の可能性に気づき、業務へのモチベーションを高める」

－1 患者の医療者に対する気持ちのあり方を知り、関わり方を見直すこと（3名未記入）

自信がある 少し自信がある 余り自信がない 自信がない
(4) (27) (3) (0)

－2 患者との対話を通して、医療者への真のニーズに気づくこと（3名未記入）

自信がある 少し自信がある 余り自信がない 自信がない
(3) (27) (4) (0)

－3 患者と共に内省（リフレクション）することで、自分の職務を新たな視点から省みること（3名未記入）

自信がある 少し自信がある 余り自信がない 自信がない
(2) (28) (3) (1)

－4 明日から患者に対する態度・言葉等が変わり、患者から慕われる医療者になること（4名未記入）

自信がある 少し自信がある 余り自信がない 自信がない
(3) (29) (1) (0)

9. 研修全体を通しての感想や“気づき”のあった方は“気づき”の内容を書いて下さい

- ・患者－医療者という日頃の役割を離れて、人と人との関係で話し合うことが、よりよい医療に繋がる。
- ・医師にも参加してもらいたかった。倫理研修の一環にするといい。
- ・ありがとうございました。
- ・医療者が推測しきれていない患者さんの気持ちを、このように直接聞くことができる場というのはとても貴重だと思いました。
- ・大変有意義な会でした。また、参加したいと思います。
- ・患者さんが感じていること、考えていることを改めて考えること、想像することができました。ありがとうございました。
- ・言葉の難しさ、伝わっているか。
- ・相手の感じ方は個々に違う。
- ・患者スピーカーに直接体験を聞いたことは、患者がどういう気持ちで病気に向き合っているかが分かって良かった。
- ・患者からの講演を聴いて、言葉の大切さ、患者の思いを聞いて、より医療者としての考え方やこれから実践できることに気づくことができたので良かった。
- ・言葉に飾りは要らない、本心で語られる言葉は必ず届く、患者さんにシンプルに語ろうと思いました。
- ・患者さんや様々な立場の人の話を聞き、人と人との関わりの中で、それぞれ、思うことがあり、寄り添うことが大切だと思った。
- ・言葉の重みを知った。
- ・患者の方、他職種の方とグループワークすることで、互いの大変さを知ることができた。
- ・忙しいという思いはどの職種にもある。忙しさを楽しさに変えられたらと思いました。
- ・少しでも患者さんやご家族の気持ちに寄り添いたいと思っていますが、やはり、当事者の方の思いは、想像つかないこともあり、貴重な意見を聞かせていただきました。ありがとうございました。また、スライドもシンプルで伝えたいことが伝わりやすかったです。
- ・毎年、機会をいただき、ありがとうございます。
- ・少しでも患者さんやご家族の気持ちに寄り添いたいと思っていますが、やはり、当事者の方の

思いは、想像つかないこともあり、貴重な意見を聞かせていただきました。ありがとうございました。また、スライドもシンプルで伝えたいことが伝わりやすかったです。

- 大変良かったです。素晴らしいです。
- 患者さんへの接し方、日々の病棟業務を改めて見つめ直そうと思います。
- 話す雰囲気の大切さ
- 言葉と気持ちの用い方の重要さ
- テーマがあらかじめ分かっていたら、それについての〇〇も〇〇〇と思う。
- 患者さんの思いを少しでも知る事ができて良い経験になりました。
ありがとうございました。
- 普段、聞けない話でしたので、本当にためになりました。
- 患者への笑顔での対応は、今までもやってきたが、これは、思っていた以上に良い事なんだ。
- 今まで以上に患者に寄り添っていかうと思う。
- 患者さんの言葉や思いをじっくり聞く機会はなかなかないので、大変勉強になった。
- 良い機会であった。
- 違う職種の話聞くことで、今まで知らなかった話を聞けました。勉強になったと思います。
- スタッフ同士でも意外と部署が違っても思っていることや考えていることは同じであった。
- 今を大切に生きていくことが大切。
- 患者の立場になって対応に変化をつける。
- 患者さんには、本心で接すること。(うわべでは見破られてしまう)
- 笑顔を忘れずにポジティブに考えて、他者に接することで良いコミュニケーションがとれる。
それは、一言でも良い。
- 私は医療従事者ではないが、出席させてもらえて有難かった。